

## 地域の経済動向（令和5年1～3月期）

### 《道央（空知・石狩・後志・胆振・日高）地域》

#### 1 経済動向に係る企業等の声（1～3月期）

##### 【建設業】

- ・ 昨年度までは、胆振東部地震の復旧工事やウポポイ関連の受注があり需要が多かったが、今年度は少し下がっている。（建設業）
- ・ 個人向け住宅建設で、建築資材や水回り設備品の仕入れ不安定により、工事の遅れが発生。また、建築費上昇により新築を見送る消費者もいる。（金融機関）

##### 【製造業】

- ・ 半導体不足による自動車工場の稼働停止が影響し、受注件数は、コロナ前と比較すると一時15%程度低下した。現在は10%程度の減少であり、回復には至らない。夏までに受注数の回復を期待しているが、資材高騰が今後も予測されるため、先行きが不透明である。（自動車製造業）
- ・ 運送費や原材料費が2割値上げされ、利益を圧迫している。紙代の値上げも打診されて先が読めない状況で、デジタル印刷などで人が不足しているが、採用に踏み切れない。（印刷業）
- ・ 原材料価格の値上げ分は製品の販売価格に転嫁できたが、電気料金が昨年同月比で50%値上がりし、その分は自社負担となった。（製造業）
- ・ 電気代、灯油代、資材、肥料など全て値上がりしているが、販売価格は1割程度しか上げられていない。従業員から賃上げの声も上がっている。（農産加工業）
- ・ タコや鮭が獲れず加工品が作れない。ブリが獲れ始めているが、今からブリの加工品を始めても他の地域よりも後発となり、売上が伸びずに赤字になってしまう恐れがあるため作る予定はない。（水産加工業）
- ・ 従業員の不足のため、今後、外国人技能実習生の受け入れを考えている。（農産加工業）
- ・ サケの水揚げ低調により売上・利益ともに減少している事業者が多く、大手はオホーツク方面より仕入れられている。ウニ、ツブ貝の水揚げがほぼ無く、地元飲食店への影響も大きい。（金融機関）
- ・ ゼロゼロ融資の返済が令和5年秋から始まる。今のところ返済は可能だが、先が読めない。（印刷業）

##### 【卸売・小売業】

- ・ 観光客向けの北海道土産物商品の卸売・小売は、販売拠点であるホテルや道内主要観光施設への来客数は回復傾向にあるが先行きは不透明。そのためコロナ禍でも市場ニーズが伸びている「ギフト市場」への新規参入を図るため、道産素材で作るギフトの新商品開発と販売を行うこととしている。（卸売業）
- ・ 国等の支援策によって人流が回復するとともに土産物品も売り上げを伸ばしているが、どうみん割り等のクーポン券での購入が大半を占めていることから、国等の支援策が継続すれば今後も継続して売上を伸ばすものと考えている。（卸売業）
- ・ 売上増加に伴い、人手が全く足りていない状況になっている。随時募集しているが、人が集まらず困っている。（卸売業）
- ・ 取扱高は年々減少傾向にあり、現在は発注を受けてから商品を用意するような状況にある。商品はほとんどが道外に出荷され、道内で消費される分は少なくなっている。（卸売市場）
- ・ 法改正によって比較的自由な取引が出来るようになり、一般消費者に直接販売するようなことも考えていきたいが、新たに取組みを始めるほどの人手がいない。（卸売市場）
- ・ コロナの影響で通院患者が激減し、そのあおりで利用者も長期的に減少した。医療用医薬品は薬価が定められており、電気料や燃料代高騰に伴う固定費の上昇で、収益は減ってしまう。（医薬品小売業）
- ・ コロナ禍前に、従業員を多めに雇用しており、コロナ禍で従業員が濃厚接触者になった場合でも、対応が出来た。（医薬品小売業）
- ・ コロナ禍の外出自粛による高齢者の体力低下や孤立が懸念される中、買物の同行や通院介助など生活全般に係る支援サービスをフランチャイズで開始した。（医薬品小売業）
- ・ オンライン服薬を行っているが、そもそもオンライン診療も件数として少なく、利用は進んではいない。（医薬品小売業）

- ・ 売上げは、前年対比 10%増。昨季は、コロナ禍でニセコ地区のホテルへの菓子卸し部門の売上げが相当落ちたが、現在は回復してきている。コロナ禍で卸販売が大きな打撃を受けたので、その教訓として、店頭小売・卸販売・通販と幅広くチャンネルを持つよう心がけている。(菓子製造小売業)
- ・ 小麦など原材料価格が微増。それ以上に紙やビニールなど包装資材が3割ほど上がっている。価格転嫁は出来ている方だが、原材料価格高騰といたちごっこの状態。(菓子製造小売業)
- ・ 物価高騰の影響により、商品の仕入れ値は7~10%程度上昇しており、一部の商品の販売価格を上げた。(小売業)
- ・ 売上がコロナ前と同程度まで回復してきた。これは旅行客が令和3年と比較して増加したことや、「HOKKAIDO LOVE!割」のクーポンを使用する買い物客の増加等が理由として挙げられる。飲食スペースの利用客も増加してきているが、大きくプラスになるためには外国人観光客に期待する。(小売業)
- ・ 従業員を一度解雇してしまうと、再び必要になった際に募集をかけても、店舗の立地上応募が少ないため、雇用調整助成金を活用して、コロナ禍でも解雇をしないように経営を行った。(小売業)

### 【運輸業】

- ・ 「さっぽろ雪まつり」が開催されたため、新千歳空港から札幌市までの観光バス需要が戻った。(観光バス)
- ・ 旅行支援(HOKKAIDO LOVE!割)が始まり、観光バス需要が増えている。新千歳の国際線で入ってくる観光客の増加もあり、コロナ禍前の約8割程度まで戻っている。残りの2割は中国人観光客が入ってきていない部分と見ている。(観光バス)
- ・ 観光バス需要が回復しているが、運転手が不足しているので、フル稼働できず。受注を断っている場合もある。(観光バス)

### 【サービス業】


- ・ 道外客の予約も好調。令和5年春の日ハムオープン戦日程公表と同時に周辺日程の予約が埋まった。訪日外国人はかなり戻ってきている。マスクを拒否する方はいないため、苦慮することはない。日本人観光客は平日を含めコンスタントに予約が入っている。【宿泊業】
- ・ 旅行支援(HOKKAIDO LOVE!割)のおかげで、客室稼働は好調。今回の旅行支援はビジネス利用も可となっているので助かっている。海外の観光客の利用も見られる。(宿泊業)
- ・ どうみん割や全国旅行支援制度は助かった。急に制度を終了してしまうと、客が宿泊費を高く感じ、利用しなくなってしまうため、1月以降も割引率を下げ継続されることとなり安心している。(宿泊業)
- ・ 「HOKKAIDO LOVE!割」のクーポンを使用する買い物客の増加等で、飲食スペースの利用客も増加してきているが、大きくプラスになるためには外国人観光客に期待するしかない。(宿泊業)
- ・ 小樽雪あかりの路や札幌雪まつりなどのイベントもあり、インバウンドはもとより、卒業旅行と思われる大学生などもスーツケースで街を歩く姿が見受けられ好調。韓国を中心に大勢のインバウンドがきている(宿泊業)
- ・ スキー場や宿泊客は、コロナ前の7~8割くらいまで戻っている。インバウンドは、オーストラリア、香港、シンガポール、タイなどが多い。(宿泊業)
- ・ 元来、ほとんどが国内客であったがPRに努めており、今後外国人客が増えると予想している。年末年始は満室であった。(宿泊業)
- ・ 外国人観光客が増加し、平日でも姿を見るようになり、コロナ前と比較すると半分程度まで回復してきた。主に、韓国、台湾、マレーシアからの客が多い。今後は、コロナのリベンジ消費による、国内外の旅行需要の増加に加え、コロナが5類になる影響などで、観光客の増加を期待している。また、中国の観光客の増減が、地域全体の観光客数に大きく影響してくると予想している。(観光協会)
- ・ 物価高騰の影響は受けているが、食事メニューや宿泊料金を大幅に上げてしまうと、客が離れてしまうため、食事メニューは50円から100円程度、宿泊料金は200円程度の値上げに抑えた。(宿泊業)
- ・ 宴会は、ほとんどない状況が続いている。婚礼の予約があったが、キャンセルや人数を大幅に減らして行うなどの状況となっている。(宿泊業)
- ・ 夏場にはビアガーデンの内容強化や、館内の居酒屋を小人数向けにリニューアルするなど、宴会がない工夫している。(宿泊業)
- ・ 客室のふすまや壁紙、サウナの内装材を取り替えるなど、清潔感に磨きをかけたり、駐車場でフリーマーケットやキッチンカー等のイベントを行い、集客に努めている。(宿泊業)
- ・ コロナの影響もあり、テイクアウトやネット販売で利益を上げている店もある。(商工会)

- ・ 宿泊予約の状況は回復してきている。ただし、人手が不足しており、客室の清掃やレストランの回しが間に合わず、定員まで予約を受けられない状況。人手が確保できればもっと予約数は伸びると思う。(宿泊業)
- ・ 宿泊施設ではコロナで従業員を解雇したため、宿泊客数がコロナ以前と同程度になってきてからは、従業員不足が目立っている。立地の問題もあり募集しても応募が少ない。(商工会)
- ・ 令和3年度と比べると3割程度増加。家族連れや観光客も戻ってきているが、宴会は少ないので、コロナ禍前までは戻っていない。(飲食店)
- ・ 昼間の来客は戻りつつあるが夜間は低調。年末年始は少人数での会食はあるものの宴会と言えるものはなく、スナック等も大人数の来店もない。(金融機関)
- ・ 認証店応援クーポンを利用する人は町内外問わず多い。効果はあるかもしれないが、現金の代わりに利用していると感じられ、集客効果ははっきりとわからない。(飲食店)
- ・ 水道光熱費が負担となっている。特に電気代の高騰が負担。肉や野菜も高騰しているが、食材仕入れに関しては、仕入先や量を調整するなどして凌いでいる。(飲食店)
- ・ 飲食店では、赤潮の影響で手に入らない海産物は、他の地域からの調達でカバーしている。(商工会)
- ・ 客入りは前年度と比較して1.5倍となった。また、コロナ前と比較すると、6割程度まで回復してきた。外国人客、特に韓国人の観光客が多く見られるようになった。コロナ以前は、冬期は外国人客の比率が高く、夏期は日本人の比率が高かったが、現在は季節による違いは見られない。今後は、コロナが第5類になることにより、徐々に客入りが回復すると期待している。(サービス業)

#### 【全体】

- ・ 原油、原材料高騰により急激に原価率、固定費が上昇している。(商工会)
- ・ 物価高で昨年値上げをした事業者が多いが、物価高は当面続くとの予想から、業種問わず再値上げを検討している事業者がいる。(金融機関)
- ・ ゼロゼロ融資を活用している融資先の約8割は返済が始まっているが、その中のほとんどは予定どおり返済を始めている。条件変更等をした先は数件程度。(金融機関)
- ・ 組合の半数以上は後継者がおらず、事業承継でよく事例に取り上げられる会社は、「優良企業」の話であると認識している。(商店街協同組合)

## 2 道内金融機関から見た地域景況感 (1～3月期)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
非常に好調	好調	やや好調	普通	やや低調	低調	非常に低調
						

## 【直近の景況感】

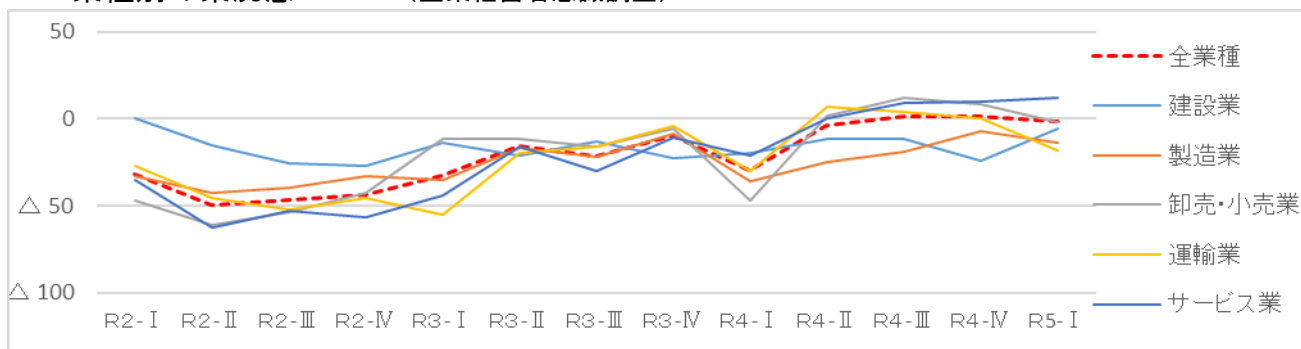
	現在の景況感				次期見通し	
	総合	生産 動向	消費 動向	判断理由	方向感	判断理由
北海道信用金庫				今期の景気動向調査では、不動産で「やや好調」となったが、製造業・小売業・サービス業・建設業で「やや低調」、卸売業で「低調」となり、全体の業況判断 DI が△6.1 となっていることから「やや低調」と判断した。		次期の業況見通しは、卸売業・小売業・サービス業で「やや低調」となるが、製造業で「普通」、不動産業で「やや好調」、建設業で「好調」となり、全体の業況判断 DI が 2.1 の「普通」となっていることから、現在の景況感「やや低調」から「上昇傾向」と判断した。
空知信用金庫				今期の業況判断指数(DI)は、△17.1 と前期(10月～12月)より 5.8 ポイント悪化し、マイナス圏内は 13 期連続となった。全 8 業種中、製造・運輸業で改善、不動産・農業では維持、残りの 4 業種は悪化となった。売上額 DI は 0.5 と前期比 6.4 ポイント改善したが、製造・農業では 10 ポイント以上悪化した。収益 DI は△19.7 と前期比 7.1 ポイント改善したが、不動産業・農業では悪化している。		次期の予想業況判断指数(DI)は△8.5 と今期実績比 8.6 ポイントの改善が見込まれる。業種別では、8 業種中、不動産・農業で悪化、製造業で横ばい、残りの 5 業種はやや改善の予想。幅広い業種で、人手不足・諸経費の増加が指摘されており、下振れリスクが懸念される。
北空知信用金庫				当金庫の景気動向調査によると、サービス業で改善がみられるも食料品等販売業は一層の後退がみられる。改善がみられる業種でも他業種と同様に原材料の高騰の影響を受けており、収益性に影響を与えている。新型コロナウイルスの影響は既に払拭された感があるが、依然として製造業・卸小売業共に景況の回復感は見られず、前回同様「やや低調」と判断した。		同調査によると、製造業・建築業等で売上の回復や収益性の改善見通しがあると見込んでいるが、原価高騰の影響から卸小売業は売上・収益性共に影響を受けると懸念を持つ。総合的な景況見通しは前回同様の「変わらない」と判断した。
北門信用金庫				売上額・収益判断 DI は下降、仕入価格判断 DI は横ばいで高止まりし、業況はわずかに悪化した。製造業で業況が悪化しており、生産動向については「低調」と判断。消費動向については、小売業・サービス業でやや改善したが小幅であり、「やや低調」と判断。		売上額・収益判断 DI は上昇するものの、マイナス判断圏内での推移を予想。業況としてはほぼ横ばいとなる見通し。生産動向は製造業で業況が横ばい、消費動向については小売業でやや改善、サービス業で悪化の見通し。
伊達信用金庫				製造業、卸売業において、原材料価格高騰が収益圧迫要因となっているものの、その他の業種では、徐々にではあるが、売上げは回復傾向にあるとの回答が多かったことから、前回同様「普通」とした。		原材料価格高騰による収益圧迫要因は続くこととみられることや、一部で人手不足もみられるが、インバウンドに回復の兆しがみられること及び引続き売上げは回復傾向との見通しが多かったことなどから、「変わらない」とした。

苫小牧信用金庫				今今期の景気動向調査によると、業況判断指数は「良い」とする企業が 12.2%に対して「悪い」とする企業は 43.0%、DI は前期から 16.9 ポイント後退して「△30.8」。前年同期比では 11.9 ポイント改善したものの、不動産業以外の業種で「悪い」との回答が 40%を超えていることから、総合評価は「低調」と判断した。生産動向・消費動向についても、今期は総じて後退していることから総合評価と同様「低調」と判断した。		同調査によると、次期については「良い」とする企業 14.3%に対して「悪い」とする企業は 40.5%、DI は「△26.2」。今期に比べ 4.6 ポイント改善の見通しにあるが、調査対象先の 66.0%が昨今の原材料高を経営課題として捉えており、景況見通しは「変わらない」と判断した。
室蘭信用金庫				今回調査より、消費動向の DI が 4 となり、前期比で 8 ポイント改善しプラス水準に転じたが、生産動向の DI が前期比 14 ポイント悪化し、依然としてマイナス水準で非常に低調に推移していることから、総合的な景況感は「低調」と判断した。		生産動向の DI・消費動向の DI が今期調査よりそれぞれ 10 ポイント以上悪化すると予想され、建設業を除く全業種で DI が悪化し、マイナス水準で推移すると予想。建設業も悪化しないが変わらずマイナス水準で推移すると予想されるため、景況見通しは下降傾向にあると判断した。
日高信用金庫				今期の業況判断 DI は△40.6 と、前期比 11.4 ポイント下降した。全ての業種において DI が下降しており低調に推移していることから今期の判断をした。業種別の業況判断 DI は、製造業△20.0(前期△5.7)、建設業△38.2(同△18.7)、卸売業△75.0(同△50.0)、小売業△45.4(同△45.5)、サービス業△49.9(同△36.7)となった。		次期の業況判断 DI は△33.0 と、今期実績比 7.6 ポイント上昇見通しにあり、今後新型コロナウイルスが 5 類へ引き下げに伴い、経済活動が活発になる予想はされるが、物価の値上げや、燃料費、原材料価格の高騰の影響は大きく、景況が上昇するには時間が必要と考え「変わらない」と判断した。

【景況感の推移】

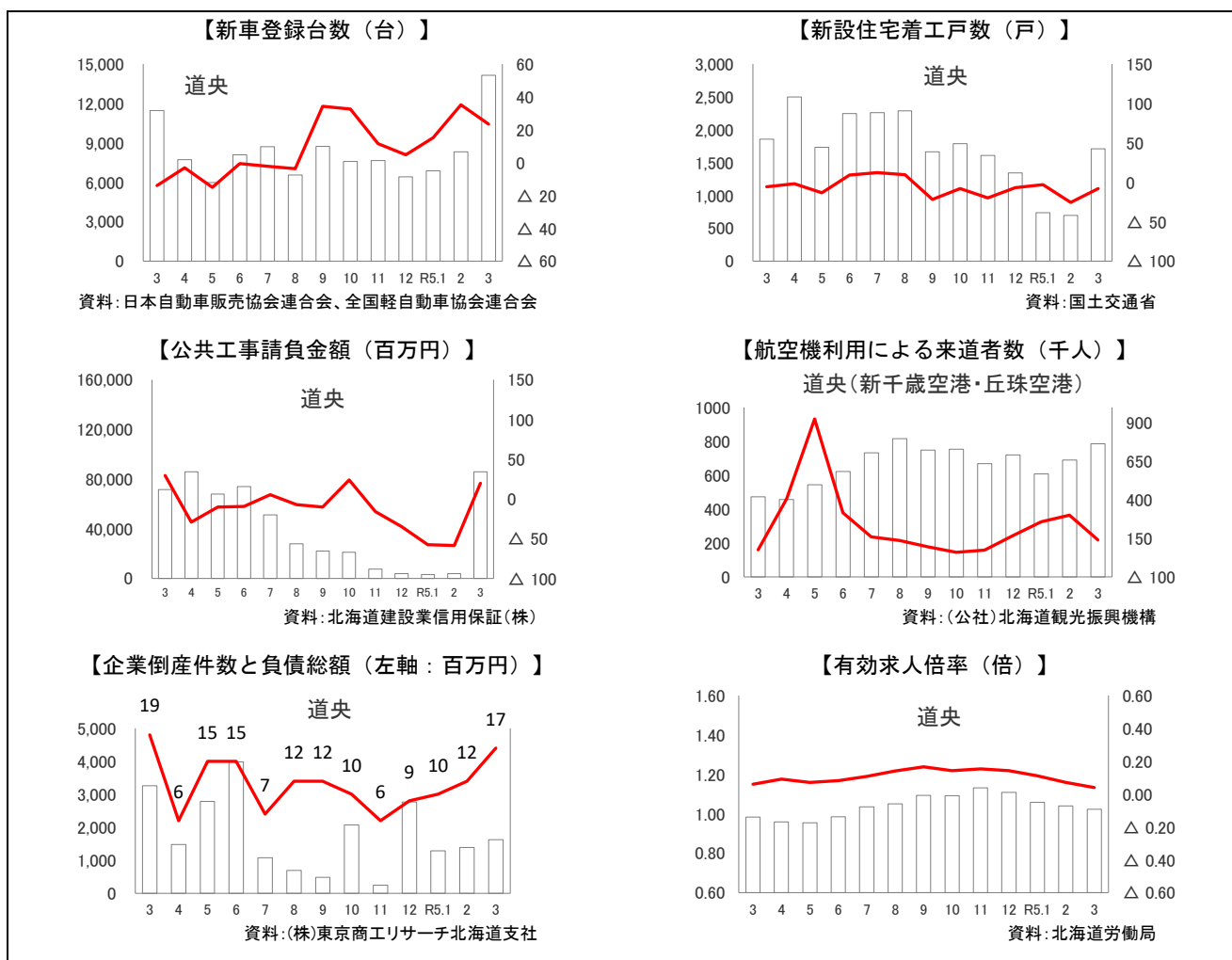
	R3-II	R3-III	R3-IV	R4-I	R4-II	R4-III	R4-IV	R5-I
北海道信用金庫								
空知信用金庫								
北空知信用金庫								
北門信用金庫								
伊達信用金庫								
苫小牧信用金庫								
室蘭信用金庫								
日高信用金庫								

### 3 業種別の業況感BSI (企業経営者意識調査)



	R2-I	R2-II	R2-III	R2-IV	R3-I	R3-II	R3-III	R3-IV	R4-I	R4-II	R4-III	R4-IV	R5-I
全業種	△ 32	△ 50	△ 47	△ 44	△ 33	△ 16	△ 22	△ 10	△ 30	△ 4	1	1	△ 2
建設業	0	△ 15	△ 26	△ 27	△ 14	△ 21	△ 13	△ 23	△ 20	△ 12	△ 12	△ 24	△ 6
製造業	△ 33	△ 43	△ 40	△ 33	△ 35	△ 17	△ 22	△ 9	△ 36	△ 25	△ 19	△ 7	△ 14
卸売・小売業	△ 47	△ 61	△ 54	△ 43	△ 12	△ 12	△ 16	△ 6	△ 47	2	12	8	△ 2
運輸業	△ 27	△ 46	△ 52	△ 46	△ 55	△ 20	△ 16	△ 4	△ 30	7	4	0	△ 18
サービス業	△ 35	△ 63	△ 53	△ 57	△ 44	△ 16	△ 30	△ 11	△ 21	0	9	10	12

### 4 各種経済指標



(右軸：来道者数のみ前々年同月比、その他は前年同月比(差)：%)